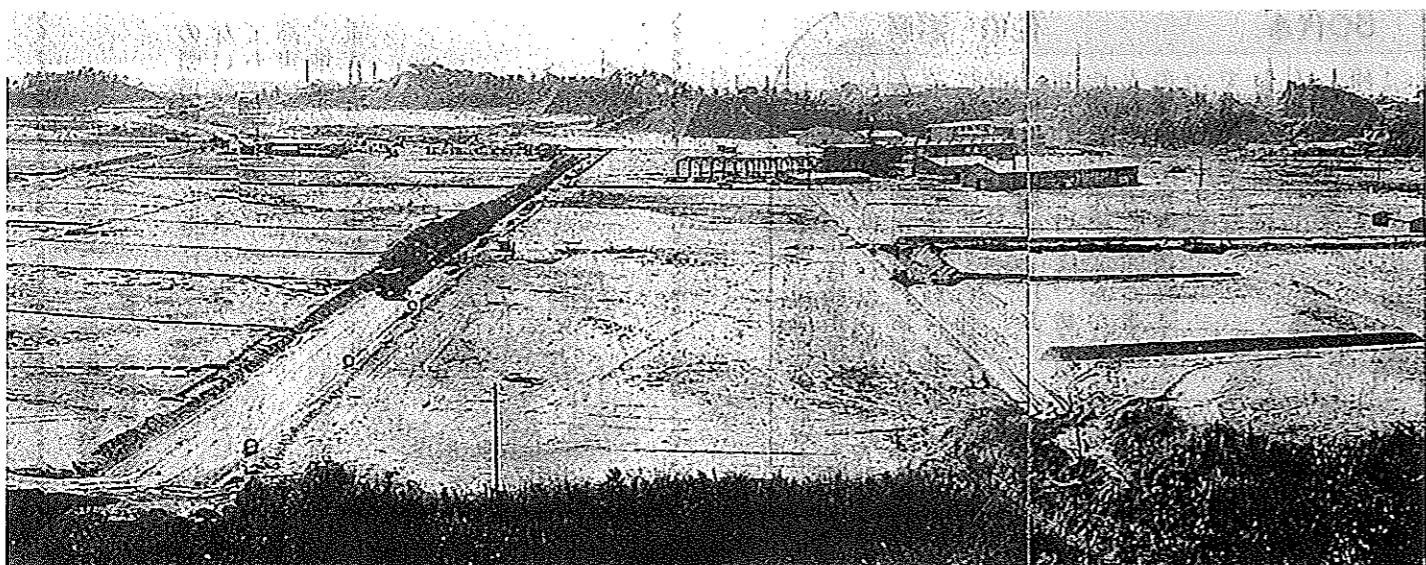


ふれあい

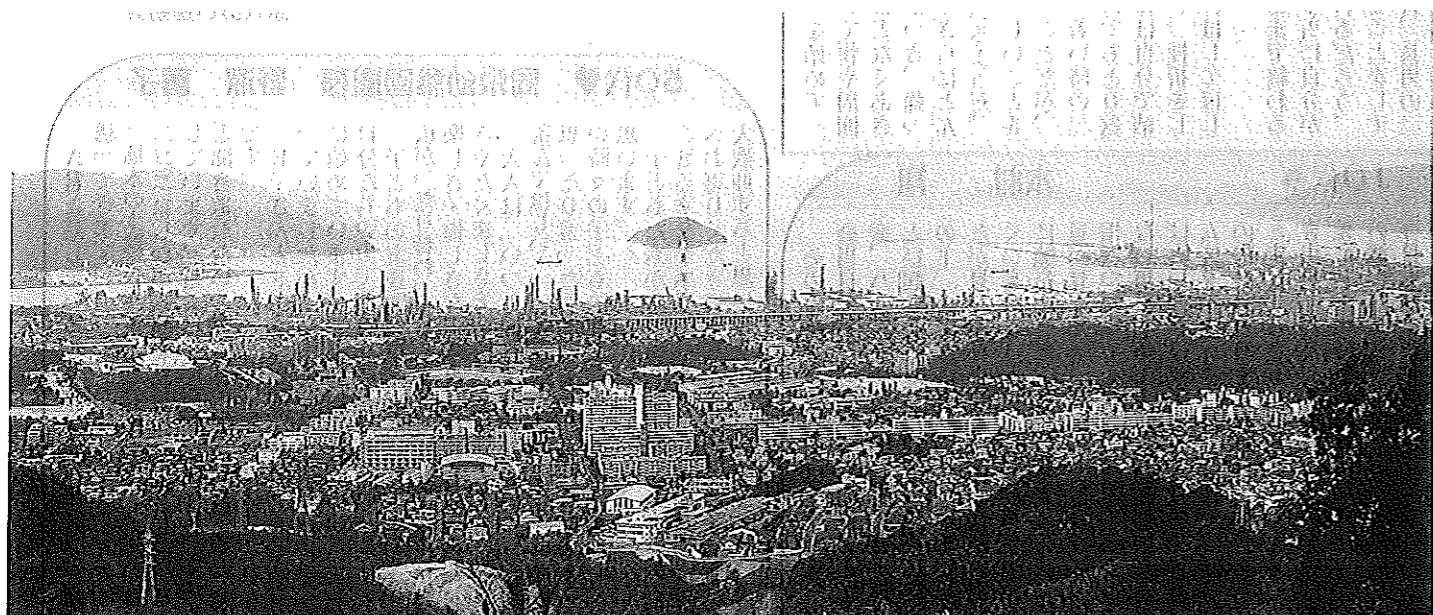
記事と情報は下記へ
周陽公民館
☎28-6515

12月の資源回収日は20日(第3日曜日)です。



造成中の周陽地区(昭和38年頃)

特集 200号記念



現在の周陽地区(平成10年11月撮影)

「ふれあい」二〇〇号で 思いを馳せて

前主事・生涯学習課
河村 孝
公民館主事として赴任したのが
十一年前。

なにも分からないままに、毎日
が駆け足で過ぎていったことを今
では懐かしく思い出します。

周陽公民館主事として六年間お
世話になりましたが、中でも毎月
発行されていた、地域広報紙「ふ
れあい」の作成には一段と思いつ
深いものがあります。

やっと発行したかと思つたら、
次号の内容はどこかに記事は！
まるで新聞記者のようにB4の広
報誌両面を埋める記事を捜し回っ
ていたように思います。

県の広報誌コンクールで表彰を
受賞したこともあり、いいものを
作らなくては：毎月プレッシャー
の中での作成でした。

今でも広報部会が継続されてい
るとお聞きし、「相変わらずの飲
みにティー中心で楽しい広報部会
かな」今度オジャマしようかな！

前主事・水産課
原田 英夫

『ふれあい』二〇〇号の発行お
めでとございます。

私が『ふれあい』にたずさわつ
たのは、平成六年四月から平成八
年三月までの二年間。毎月二十日
前後の七時過ぎに佐伯広報部長以
下「周陽の名だたる重鎮」が夜な
夜な集合し、最初の十五分足らず
で来月号の内容、取材者、締切日、
編集・印刷日をまじめに決定し、
後の時間はいろんな話題でフリー
トーク。勉強になりました。

『ふれあいクイズ』のハガキの
中にこんな意見がありました。「私
は、転勤でこの周陽にきて『ふれ
あい』を読みました。地区内のこ
とがよく分かり、来月号も楽しみ
にしています。」

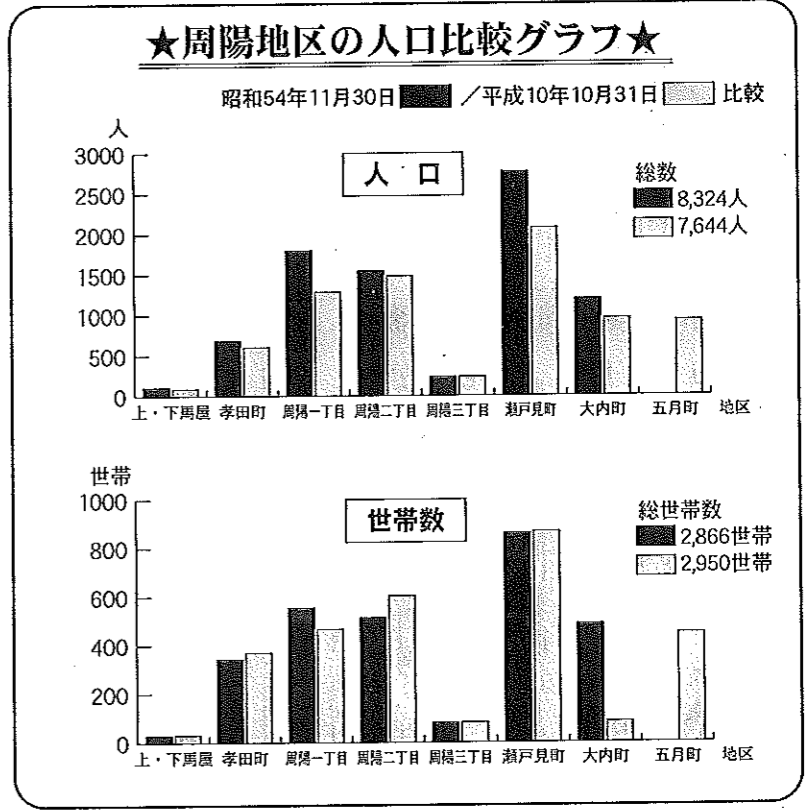
これから『ふれあい』づくりを
される皆さん、期待しています、
がんばってください。

前主事・保険年金課
小森 祐一

「ふれあい」もついに二〇〇号。
地域の情報誌としてここまで続け
てきたのも、歴代広報部員の努力
と地域のみなさんの協力があつて
こそだと思ひます。「ふれあい」
の編集で一番大変だったのが、実
は表紙の写真で、記事は集まったが、
表紙に使える写真がないぞ！さあ
大変ということがかなりあり、編
集部員の方にはご迷惑をおかけし
ました。



周陽公民館玄関



編集後記

表紙の二枚の写真で時代の流れを
目で見て頂けたか。「ふれあい」
も、皆さんの最初の小さな「つぶやき」
から今回の二〇〇号記念号という大
きな節目の発行につながりました。
それぞれの世代に、流れに負けない
確かな心を感じてもらえたらしょうか。

思えば平成元年の一〇〇号記念号
発行からちょうど十年。今、国会は
迷走を続け、あわただしい動きの日
本はどこに向かおうとしているので
しょう。二〇〇号記念号もどこへ向
かつたらいのか部員一同、不安と
憤性と少しの期待で取り組みました。
紙面として形になれば、出来ばえよ
り(?)発行して次につなぐ事がで
きた、という事実が何より嬉しいの
です。

地域の皆様の協力に感謝しつつ「継
続は力なり」を支えに、今回は単なる
通過点とすべく頑張っています。

発行二〇〇号にあたって

地域のミニ情報紙として昭和五十四年十月創刊いたしました。「ふれあい」も版を重ねこの度二〇〇号を発刊することとなりました。この間、編集・発刊にたずさわって頂きました方々から感謝の意を表します。

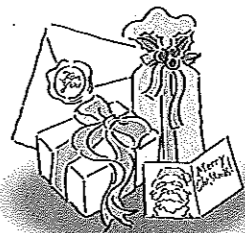
創刊当時は、周陽コミュニティ推進協議会が発足したばかりの時、頻りに協議を開き、みんなであるんな論議を交わした思い出があります。当時のことを思い出すにつけ今昔の感がいたします。

これから少子・高齢社会の進展に伴い、地域コミュニティ活動の在り方も若干

周陽地区コミュニティ推進協議会
会長 野村悟一郎

の軌道修正が必要になってきたのではないかと思っております。いずれにしても「ふれあい」の果たす役割は益々高まってくると思えます。

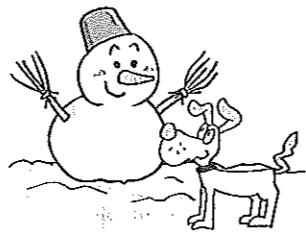
地域の皆様方も一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。



き や ぶ つ



10代~70代の皆さんに、7,644人（周陽地区人数）の代表として、今の心のかたすみを、ちよつびりのぞかせていただきました。皆さんはそれぞれの思いをどんな気持ちでうけとめられますか？



創刊二〇〇号に寄せて

コミュニティ、及び公民館の広報紙「ふれあい」二〇〇号の発行おめでとうございます。この「ふれあい」の創刊号は、昭和五十四年十月、これまで十二月で二〇〇号となります。これまで二十年間にわたり、地域コミュニティ情報及び公民館情報を地域の皆様へ提供、お知らせをして参つたものであります。この間コミュニティ歴代広報部員の方々のご努力に対し敬意と感謝を致します。テレビ、ラジオ、新聞、その他多くの情報が飛び交う中であって、周陽と言う小地域に懸わりのあるものを提供しながら、各種の地域活動の推進を始め

周陽公民館

館長 吉村 重武

生涯学習活動の推進に努めて参られたものであり、その使命は、とても大ききなものであり、役割も大いに果たして来たものです。

今後この使命、役割を十分認識し、より幅広い視野に立った「ふれあい」づくりを努め、明るくふれあいのある地域づくりや、実りある生涯学習活動の推進に取り組んで参りたいと思えます。皆様のご指導ご協力をいただきますようお願い致します。二〇〇号発行記念の一言とします。



あいさつ運動



夏まつり

60代 ♠ 御手洗 寛

当地区の広報紙も二〇〇号を重ね、歴代の広報部員に敬意を表する次第である。昭和四十九年に当周陽地区が近隣の自治会連合会から分離独立して以来、二十四年になる。

野村コミュニティ会長は、地区の分離独立の立役者であつたばかりか、氏は高潔と万機の公論を以て、地区住民を統括し、コミュニティの発足を初め、他の地区に先駆けて、夏祭りなど、コミュニティにふさわしい数多くの事業を企画展開され、他地区のコミュニティにも範を示されて来た功績には偉大なものがあり敬意を表する者である。

しかし、あと四〇〇日足らずで二十一世紀となる。我々、老兵は去り、若い人達による新しい創造と発想と活力に満ちた新しい周陽地区に生まれ変わる時期が到来していることを感じる今日この頃である。

50代 ♠ 佐伯 寿彦

結婚して一年後、親の病気で東京でのサラリーマン生活に終止符をうち、帰郷した時、少々淋しい思いをしていた。そんなとき、周南武道に誘つてもらい、又その縁で、公民館活動にも参加するようになり、多くの新しい仲間を得ることが出来た。

私が、広報紙「ふれあい」にかかわらせてもらつていた時、病に倒れてしまつたが、皆さんのあたたかい励まし、どんなに私の力になつた事か。リハビリ中の今も、そんな思いにささえられて頑張つてゐる。大都会では経験できないつながりや、皆さんにも体験してほしい。周陽地区は仲々いいですよ。



70代 ♥ 石丸サヨ子

九月の声と共に、白い大輪の花が開き始めた、ひんやりした夜明けに、白鳥が空を舞つている様で清々しい。

でも太陽が輝く屋前には、ほんのり淡いピンクに染めはじめ、太陽が西に傾く頃には、真赤に染まり、花びらを包みながら小さく、丸くなる。

そして明朝、赤い鞠になつてポツリと落ちる。

誰が名付けたのか、酔う芙蓉。何と粋な名前であろう。

人の一生も酔芙蓉の様に、美しく生き、好きな事にほろ酔いながら、乱れる事もなく自ら丸くつんで、終わりたいと、つくづく思う、十一月肌寒い朝、紅い花が残つていた。

残り花
一人が飲んで
二日酔



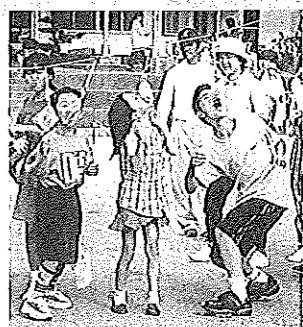
40代 ♥ 安達 七重

長男が東京でひとりぐらしを始めて一年半。とんでもない夢を描いて親や周囲の声を聞かず上京したが、ほどなくあきらめざるを得ないことに気がつき、帰つてくるかと思いきや、次なるさらにとんでもない夢を描いかけ始めているようだ。父親としてはそんな危なっかしいことを認めるはずのないのが当然のことだが、私は諦めてゐる。長い人生、若い時の二年や三年のつまずきはどうにでもとり返しがつくだらうし、子どもには自分で納得のいく人生を送つてほしい。挫折をしながらも後悔する生き方だけはしてほしくない。

今度の夢もいずれは夢のまま終わるだろうが、そのうちきつと本当に自分がやりたいことを見つけてくれるだろう。それを信じて親としてできることをしてやるしかないな。十一月八日、長男の二十才の誕生日、すつかり高くなつた空を見上げながら、そんなことを思う。



親子陶芸教室



ふれあい運動会

20代 ♥ 守川 亜紀

高校を卒業して短大に入り、あつという間に時が過ぎていつている気がする。そしてだんだんと年をとつていっている自分がわかる。私は短大には電車通つてゐる。運の悪いことに行きも帰りも高校生ラッシュだ。朝からよくしゃべる女子高生は本当に腹が立つ。自分も一年前は……と思うと不思議な気分になる。行きも帰りも電車に乗つて通つてゐるとたとえ四人席で三人すわつてゐてもこの一つの席にすわつてしまふ。高校の時はずいぶん席にすわつてゐた。これが私の一番年をとつたと思ふ瞬間だ。年をとつたといつても外見は何もかわつてない。中学生の時「自分のハチ子はどうな女性になつてゐるんだろう」とそんなことをおもつてゐたのに、その姿がこれでは……と最近ふとおもふ。でもよく考えてみると今が一番充実しているようにおもえる。今を大切にそして自分の人生はいい人生だつたとおもえるように毎日をつみかさねていきたい。

10代 ♠ 木村 翔

その事件がおきたのは、中学校の運動会当日でした。朝早く、お母さんに「大変、ハムスターが逃げた」と言われ、とび起きた。早速、家族総出で、机の下、タンスの裏など、家中を捜しましただが見つかりません。僕は外かと思いつつはこうとしたら、何か生温かい物に触れました。よく見るとハムスターの足が見えました。しかし、くつをふつても指でつかつても動きません。ぼくは力のない声で「死んでる」と言いました。そばにいた父は無言のままくつを取り、ハムスターをうめに行きました。ぼつた穴の中にハムスターを落とすと、ムクムクと動き出しました。この九死に一生を得た寝起きの悪いハムスターは、今日もひまわりの種をかじつてゐます。



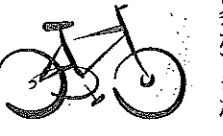
30代 ♠ 周陽小学校教諭 田中 一志

「ペダルつて、こんなに重かつたっけ」

高校三年間は、片道五kmの道のりを毎日往復してゐた。小学校の頃はサイクリングクラブに所属して、県内いろいろな所に行つた。自転車は、確実に「僕の足」であつた。

それがいつからか遠退き、気が付いた時には、移動に自分の足を使わなことが普通になつてゐた。夏は暑く、汗をかきものである。冬は寒く、手がかじかむ心地良さを感じられるはず……。

最近、また自転車に乗る機会ができた。普段通つてゐる道の勾配を知り、ペダルの重さに驚く。肌に触れる夜風が季節を覚えてくれる。久しぶりの「感じ」に喜びを覚えるこの頃である。



50代 ♥ 周栄幼稚園園長 野深 善子

A君と話しているとB君が側に来てA君遊ばと誘つてきます。

楠木の木陰でC君さんとD君さんがうなずいたり、ニコニコしながら顔を見合せてたりしながら話してゐます。近くにいっても何を話してゐるのか殆ど聞き取れないのですが、とても微笑ましい光景です。

E君さんとF君さんが何か意見があわす言ひ争つてゐましたが、いつの間にかさら粉作りを一緒に始めてゐます。お互いに自分の思いを出し合い自分たちの力で仲直りができました。

子ども達の友達関係は、成長に伴つて深まつたり広がつたり替つたりします。その過程で、嬉しさ・楽しさ・悔しさなど様々な気持ちを体験し、優しさやたくましさも培つていきます。

大人は「いつも同じ子と遊んでゐる、他の子と遊んでほしい」、「誰とでも遊んでほしい」などと、思つたり言つたりすることがよくありますが、その時々の子どもの仲よしと一緒に大切にしたいと思ひます。

子どもたちから日々新しい刺激を受けながら過ごせる幸せを感じてゐます。皆様も時には幼稚園へお寄りくださいませんか！きつと子どもたちも大歓迎すると思ひます。